

展開する風景

Shifting Landscape - Symmetrical Dreams -

小林亮介

Ryosuke Kobayashi

2016年6月から7月にかけて、名古屋のギャラリー、ガレリアフィナルテで行った個展「展開する風景 - Symmetrical Dreams -」で展示した四点の写真作品は一点当たり約三百五十枚～六百枚の写真を合成して作られており、通常のワンショットで撮られる写真とは大きく異なるパースペクティブを持っている。画面の中央にひとつの中心がある写真と比較すると、中心がいくつもあるこの写真は画家が視点を移動しながら風景を写し取る方法に似ており、謂わば「絵画的」な写真と言えるかもしれない。

また、三次元空間を平面に写し取る以上は当然あらゆるところに矛盾が生じるため、自然に見えるよう「処理」しなければならない。これも画家が意識せず、また、時には意識して行っている絵画的な処理と重なる。

このような仕事を私は「展開する風景」と呼んでおり、画面全体の均質性が高く、いたるところに中心があり、そこから如何様にも展開してゆくことができる、という意味が込められている。

この方法を用いての制作は2010年から続けており、すでに私にとっては特別な方法ではなく、むしろワンショットで撮る写真よりも自然な制作方法となっている。その意味では、この方法を用いて、あるテーマに基づいた作品展開を行うことは自然な流れと言えるであろう。

今回の「Symmetrical Dreams」では左右対称の四つの建物をモチーフとして選んだ。これらの建物の中には、厳密に言うと左右対称ではない部分もあるが「左右対称性」を目指した建物であることは間違いないであろう。そこには完全性への希求や、権威の絶対化への志向性を読み取ることができるし、また、理想の姿を追い求めてきた我々の先達の「夢」を感じ取ることもできるであろう。

この展覧会で、私がこの四つの建物を選んだ訳は、完全性や無謬性の記号としての建築物が歴史を経ることによって如何に新たな意味を帯び変貌してきたのか、そして、距離的にも時間的にもかけ離れたこれらの建物の間にどのような意味が立ち現れるのかを目にしてみたい、という私自身の強い欲求が根幹にあったからである。

さらにもうひとつ付け加えれば、画面全体の均質性が高く細部の物質感が際立つこれらの写真が、相互の間に生じる新たな意味とどう反応し、さらに、どのような新たな意味を生成するのかを見てみたいとの思いがあった。





国会議事堂 2016年2月7日 インクジェット・プリント 1,856×3,300 mm
Feb. 7, 2016 The National Diet Building, Tokyo Inkjet on paper





原爆ドーム 2015年12月28日 インクジェット・プリント 1,856×3,300 mm
Dec. 28, 2015 Genbaku Dome (Atomic Bomb Dome), Hiroshima Inkjet on paper





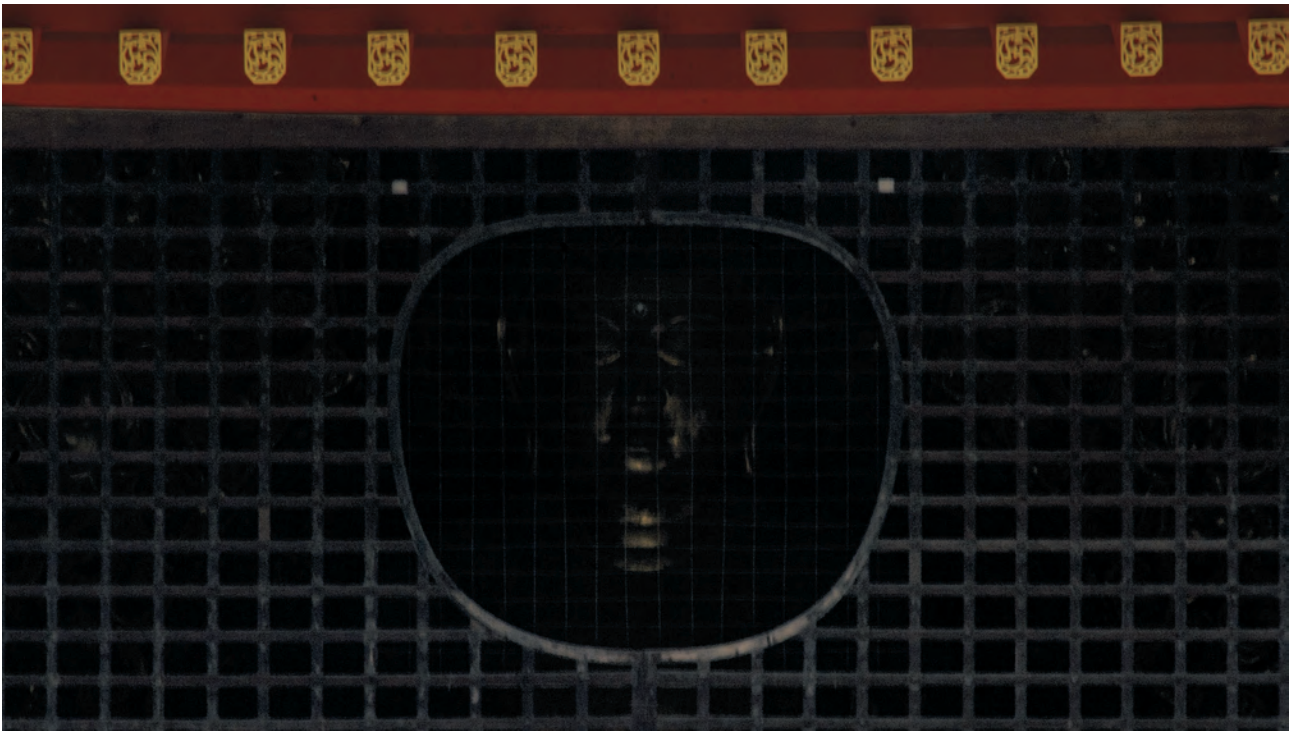
平等院鳳凰堂 2015年12月26日 インクジェット・プリント 1,856×3,300 mm
Dec. 26, 2015 Hoo-do Hall of Byodo-in Temple, Kyoto Inkjet on paper





首里城 2016年4月15日 インクジェット・プリント 1,687×3,000 mm
Apr. 15, 2016 Shurijo Caste, Okinawa Inkjet on paper





部分(実物大)
Detail (Actual size)







